

マンガ
岩田紘典
キングススカラープロ
原案
橋本博

石をつぐもの

—天草の下浦石工ものがたり—

監修
藤原恵洋
鈴木寛之
協力
NPO法人
熊本マンガミュージアムプロジェクト

天草市下浦地区
振興会

目次

◆はじめに	002
◆第一話 天草の海! 竜宮城の出会い	003
◆コラム	037
◆第二話 賽の河原に石をつめ!	043
◆コラム	077
◆第三話 オール天草、長崎の奇跡!	085
◆コラム	122
◆年表	128
◆天草下浦たぬきさるき	131
◆おわりに	148
◆挨拶	152
◆主要参考文献	153

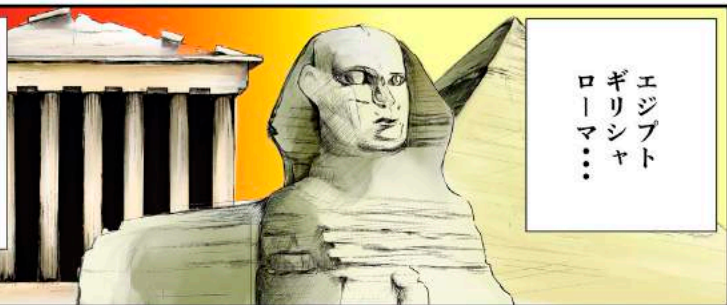
石工
いしく

それは
人類文明を
陰で支えた
職人たち



エジプト
ギリシャ
ローマ…

世界に遺る
偉大な建築の
数々は
石工の存在を
抜きにしては
語れない



日本もまた古くから
高度な技術を誇る
石工の国であった

彼らの技は
幾千年もの
風雪に耐え



時に奇跡すら
呼び起こす



はじめに - 「天草の人と石」が世界遺産を作った

どんな場所にも忘れてはいけない物語があります。でも、日々何気なく生活しているとなかなかそれに気がつきません。

例えば、毎日通っている神社やお寺の中にある石像などに目を向けてみましょう。これは一体何だろう、誰がどうしてここに置いたんだろうと考えてみてください。

みなさんは下浦(しもうら)という地域を知っていますか。下浦は「石工(いしく)の里」とよばれ、天草だけでなく九州各地の神社やお寺で見られる石像を作った石工たちの発祥の地だったのです。もしかしたらみなさんの住む地域にある狛犬(こまいぬ)や仁王像(におうぞう)をよく見ると、そこに刻まれた下浦石工の名前を見ることができるかもしれません。

ただ、今でもそのことを知る人は少なく、天草に石工がいたことも忘れ去られようとしています。しかし昔の人たちが残した足跡は簡単には消えませんが、そのことを教えてくれたのは長崎の人たちでした。

長崎の観光スポットと言えばオランダ坂、出島、大浦天主堂、グラバー邸などが有名ですが、これらすべてに、実は天草の石工たちと下浦の石が関わっているのです。

このように天草では忘れられてしまったことが、長崎では語り継がれていました。それを知った天草の人たちは自分たちの地域に潜む歴史の重みを知り、それが地域への誇りに繋がっていったのです。

そこで下浦の人たちが中心となって下浦や天草のことをもっと知ってもらおうと2017年に「熊本・天草石工の里下浦ガイドブック」が作られました。きっかけは2014年から始まった「下浦フィールドワーク+デザインワークショップ」でした。九州大学の藤原恵洋教授率いる学生、研究者チームが下浦を活性化させるために3年間調査に訪れ、様々な提言をしていただきました。ここから下浦のことが次第に注目されるようになったのです。

そして今度は若いみなさんに向けて、下浦の若者たちを主人公にしたマンガを作ってみました。これを読んで、世界遺産にも認定されている文化財が下浦と深い関わりがあったことを知ってもらえると幸いです。



マンガ
岩田紘典
キングスカラープロ
原案
橋本博

石

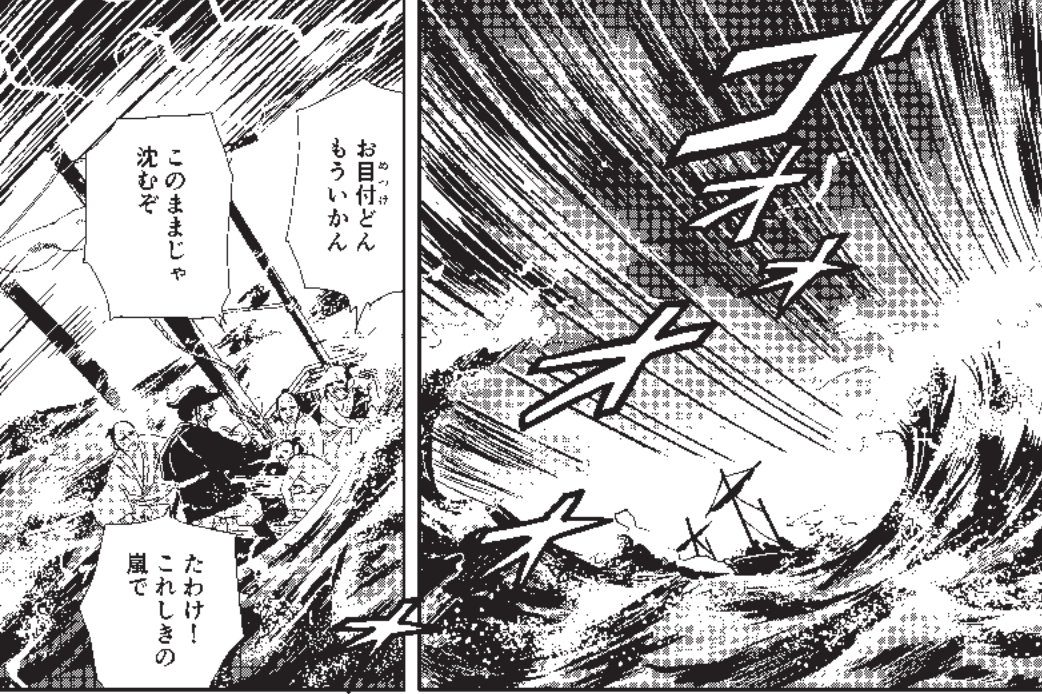
をつぐもの

—天草の下浦石工ものがたり—



第一話
天草の海！竜宮城の出会い

この物語は歴史を基にしたフィクションです。



お目付どん
もういかん

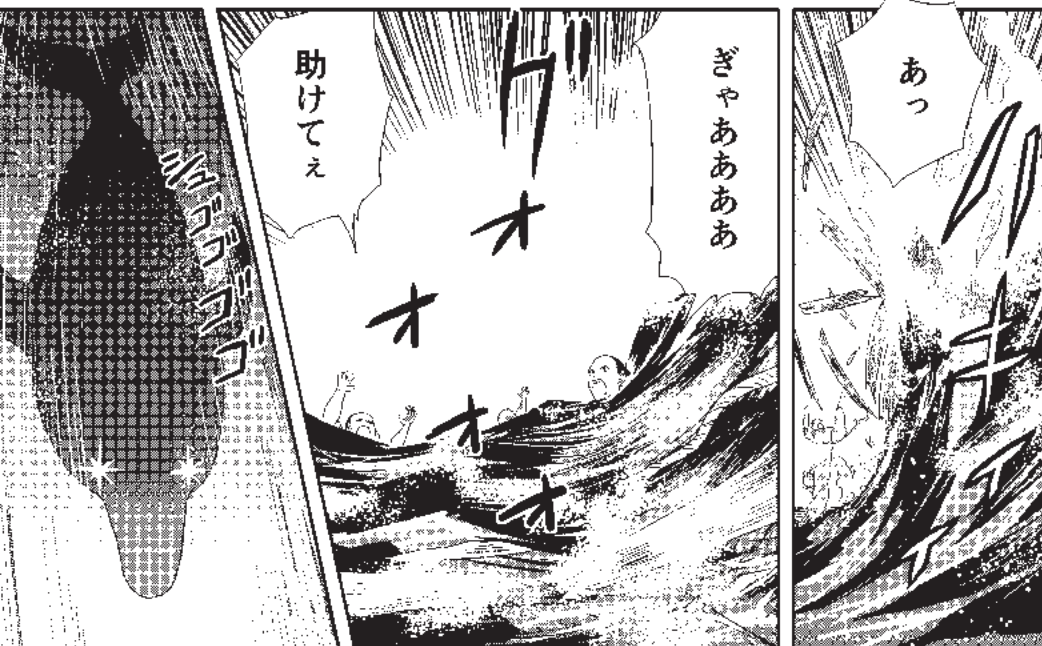
このままじゃ
沈むぞ



積み荷の
石ば捨てて
下浦に戻ろう

ならぬ!

お上に
お納めする
石ぞ



あっ

ぎゃああああ

助けてえ



安政2年(1855年)
幕末期の天草 下浦

古来天草は
「石の島」と
呼ばれ
多彩な石材の
宝庫であった

中でも
天草上島の
下浦は良質の
砂岩を産出し
石工の里として
知られている

船はまだ
帰らんとね!



喜助…

喜助が
助けに
行ったて

うちの
旦那は
大丈夫なん!?

なに!
喜助が!?

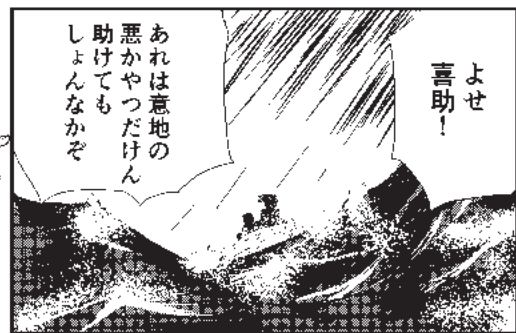


喜助!



あきらめるのは早い

え?



よせ 喜助!

あれは意地の悪かやつだけん助けてもしょうなかぞ



大丈夫か!

喜助!



体が動かない!

ものすごい潮流だ!

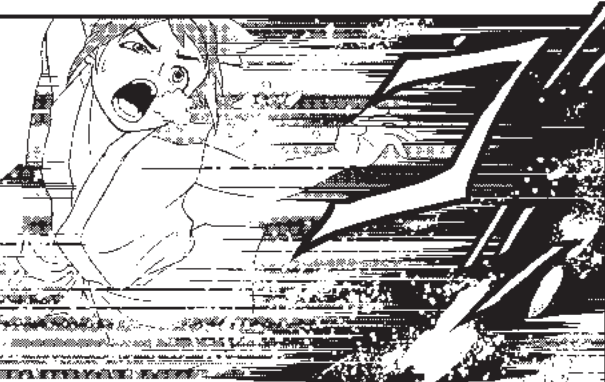


ミーモン頼んだぞ



いやつとか嫌なやつなんて

人の命を見捨てる理由ならん



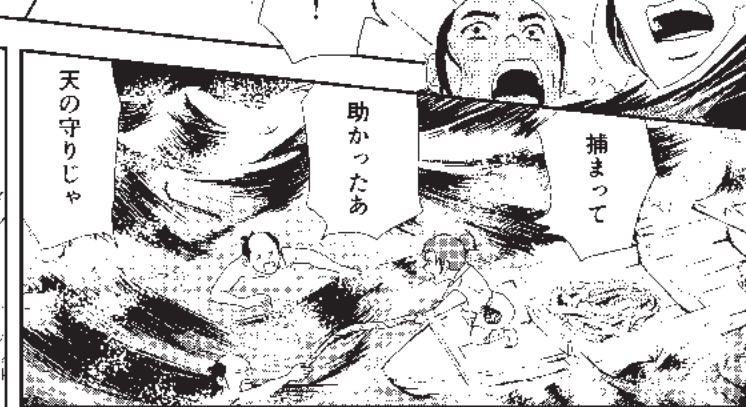
うわっ!

どんどん底に吸い込まれていく



渦に呑まれてる

だめだ! 助からん



捕まって

助かったあ

天の守りじゃ

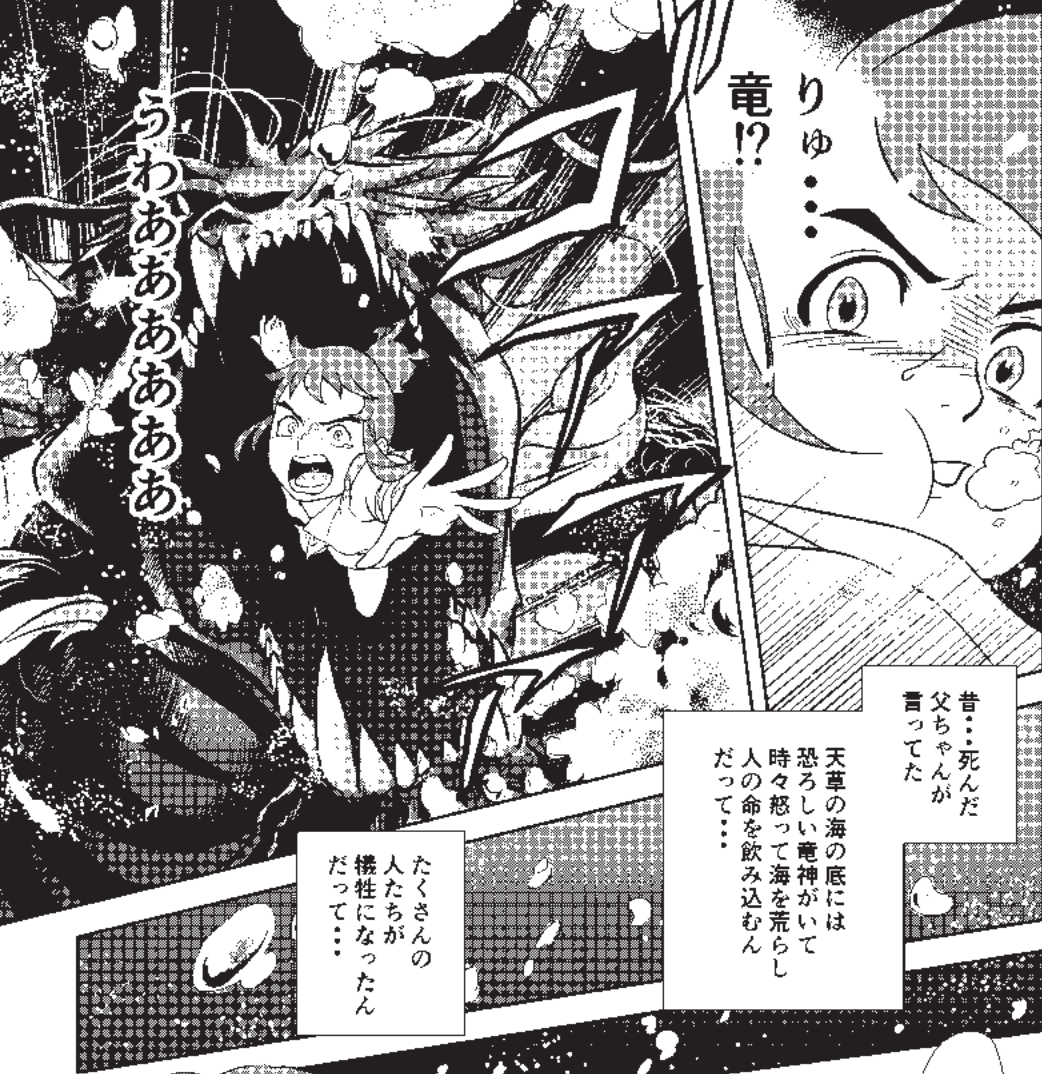


お目付どんは!?

あっ



喜助 この物語の主人公。下浦石工の家に生まれた少年。



りゆ...
竜!?

うわあああああああ

昔・死んだ
父ちゃんが
言ってた

天草の海の底には
恐ろしい竜神がいて
時々怒って海を荒らし
人の命を飲み込むん
だって...

たくさんの
人たちが
犠牲になっ
たんだって...



シカ...

シカは
いるかい?

シカ

下浦 仁田 銀主屋敷

仁田は良質な下浦石(アオテ石)の産地
*銀主...大地主、富豪。天草特有の呼称。



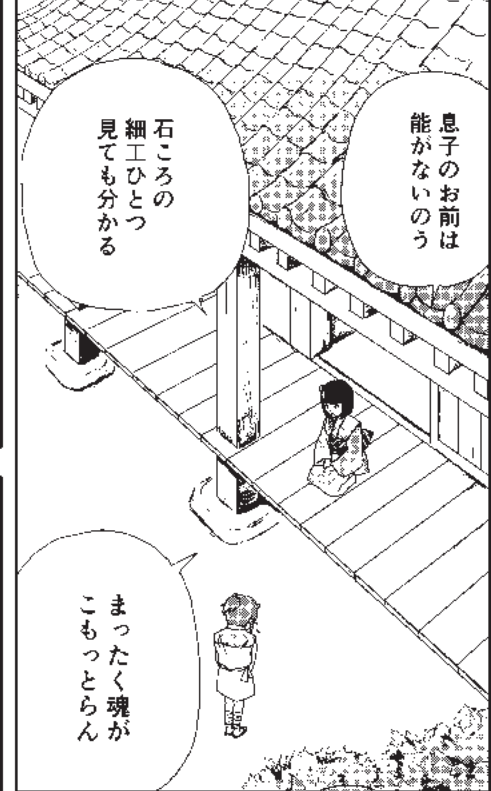


シカ 下浦、仁田の銀主の一人娘。
喜助の幼なじみ。



お前よりはな

シカに
石工の何が
分かるのさ



息子のお前は
能がないのう

石ころの
細工ひとつ
見ても分かる

まったく魂が
こもってらん



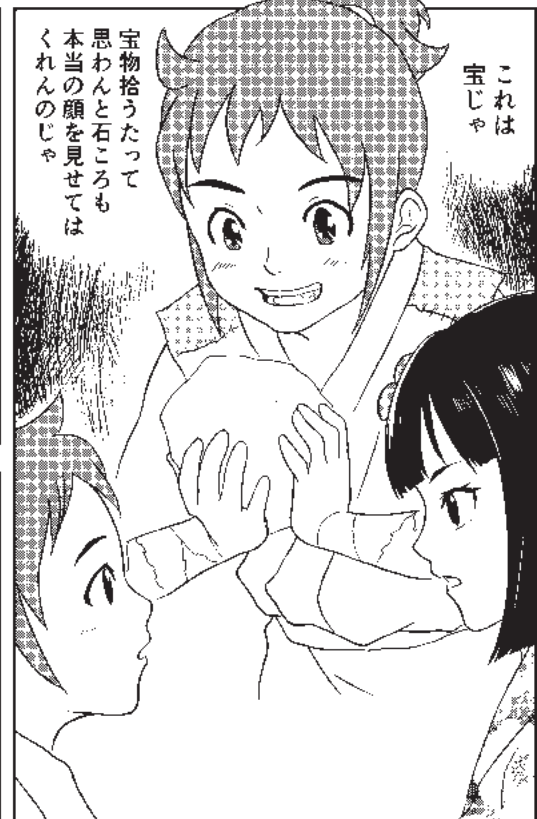
お前は
石ころを
石ころとしか
思ったらん

どういっ
こと??



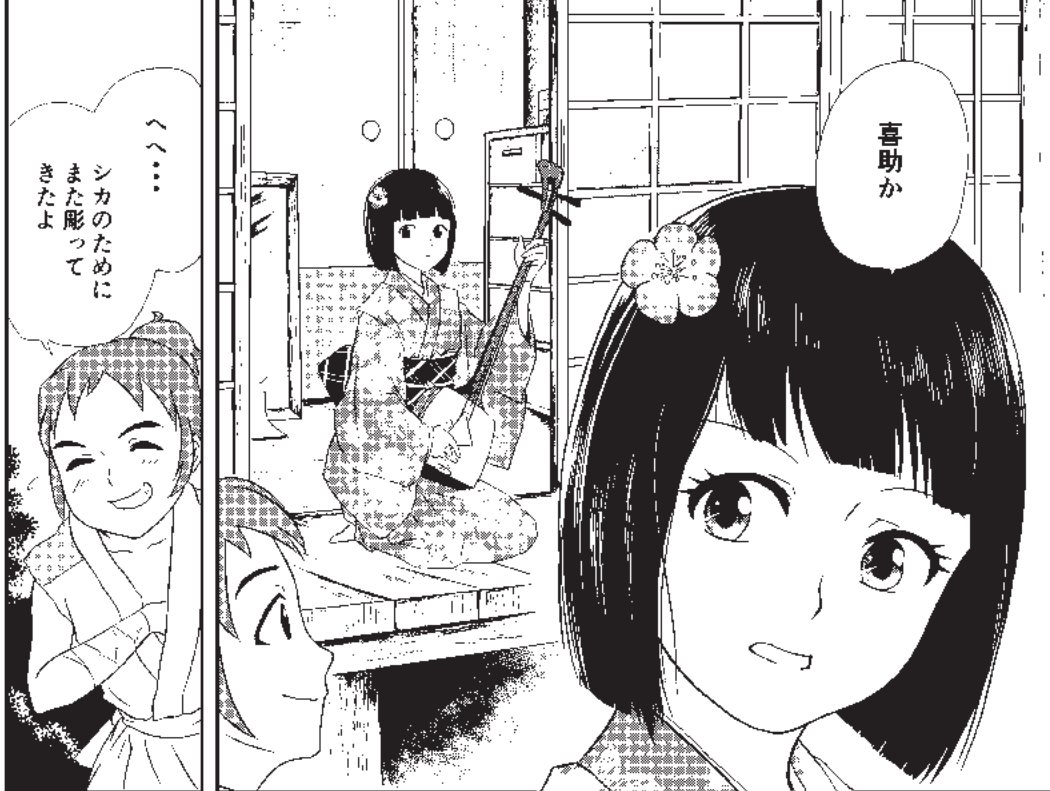
石ころの
本当の顔?
何それ

お前も
まだまだね



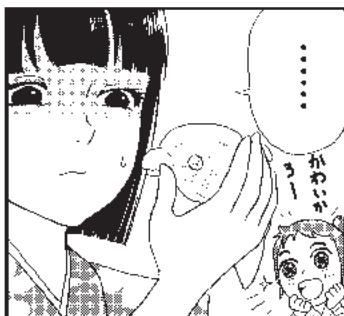
これは
宝じゃ

宝物拾うたって
思わんと石ころも
本当の顔を見せては
くれんのじゃ



喜助か

へへ……
シカのために
また彫って
きたよ



……

かわい
うー

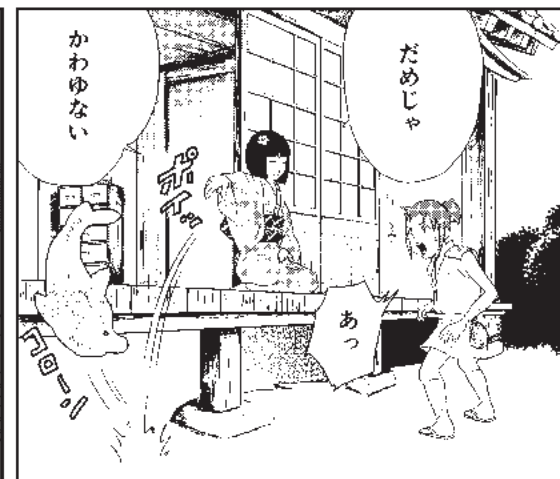


海の友達
ミーモン
ばい!



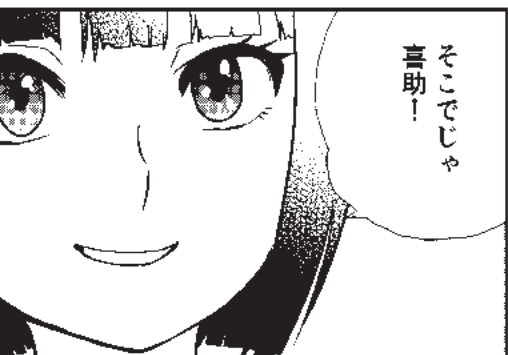
そんなあ

お前の父
源五郎どんは
生きとる頃は
下浦でも
名の知れた
石工やった
そうじゃが……

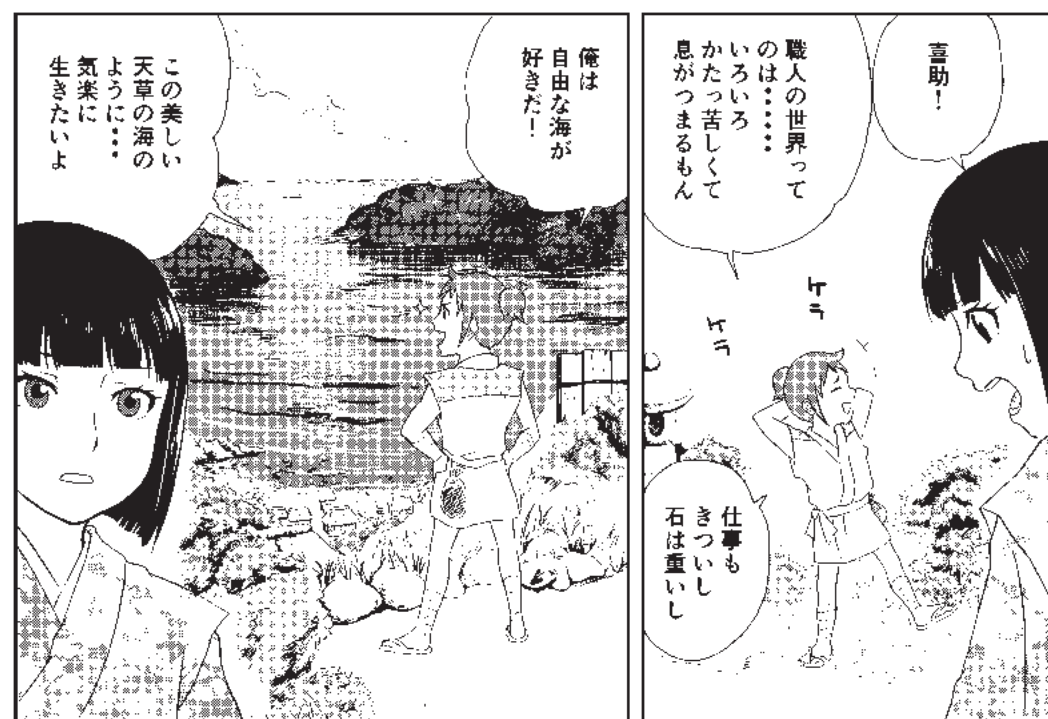
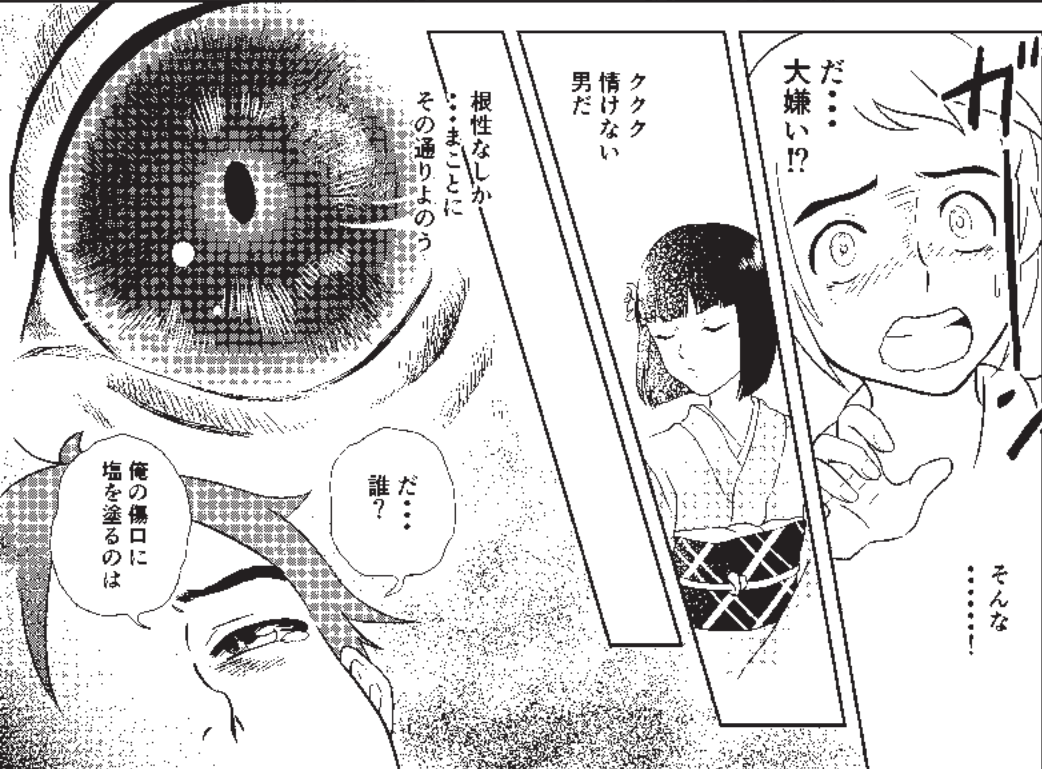


だめじゃ

かわゆない



そこでじゃ
喜助!





食べるつもりなら待って!!

ちよちよちよと待って!

話を聞いてえ!!



人間の子ども味の初めてだ

ほ...本物!?



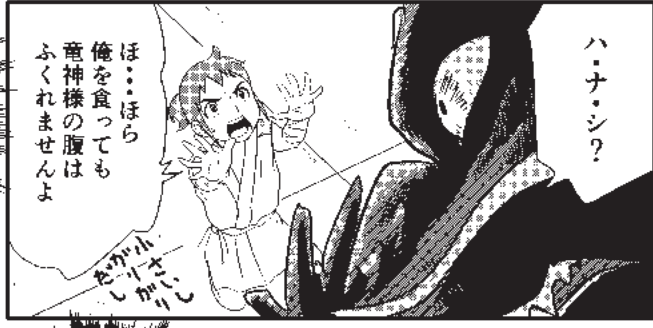
ぎよえあ
あああ
バケモン
じゃあああ!!!



ガ
ル
ル
ル



貴様ごとき人間が大海の主である竜神の望みをかなえると申すか!!



ハ・ナ・シ?

ほ...ほら俺を食っても竜神様の腹はふくれませんよ



ひえ~~~~



黙れ! 小僧

炊事洗濯掃除とか何でも...

そのかわり俺を生かしてくれたら竜神様の望みを何でもかなえてあげます!



バケモンではない



余は神だ
ここは竜神の住みか...
竜宮城である

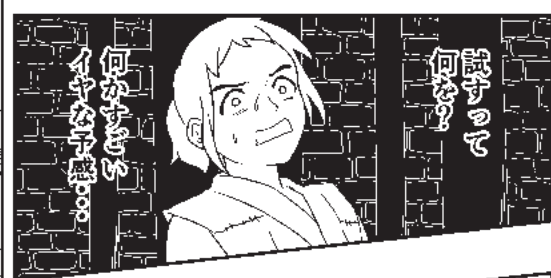
竜宮城!?



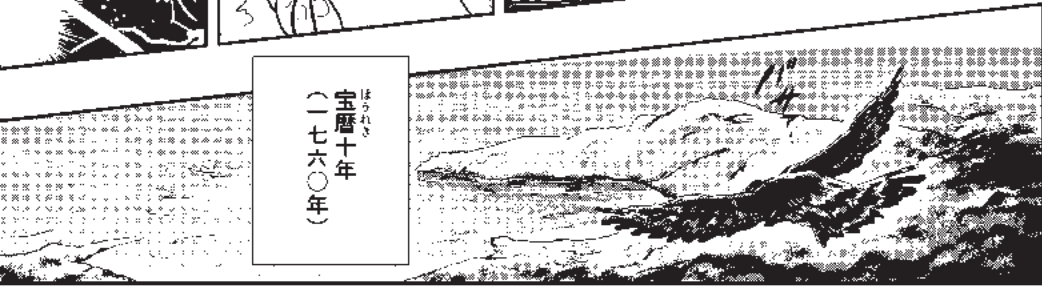
ええ〜い
もうどうに
でもなれ!!



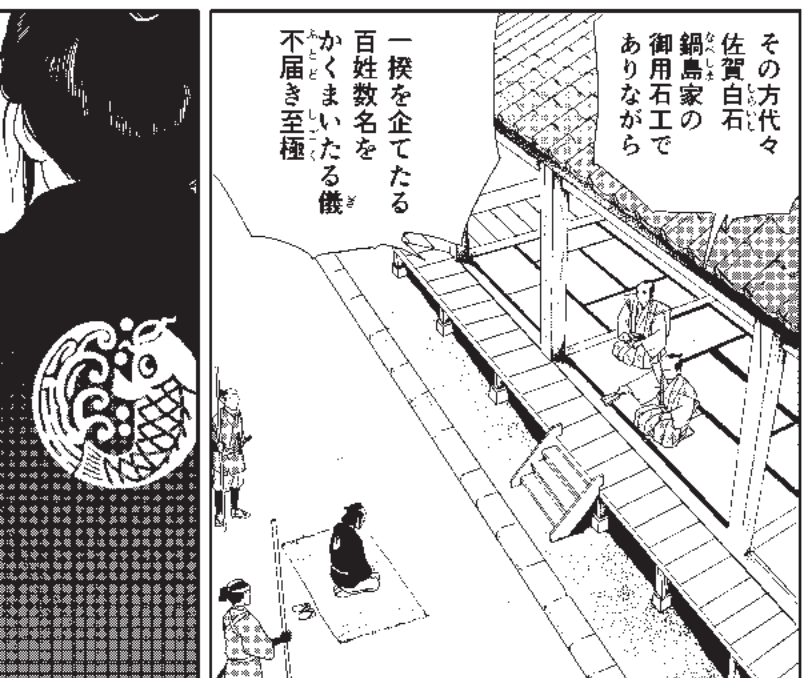
お前を
試して
やろう…



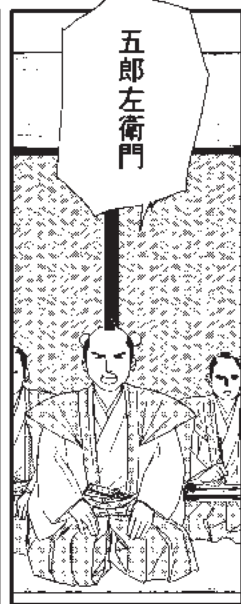
試すって
何が…
何か…
イヤな予感…



宝暦十年
(一七六〇年)

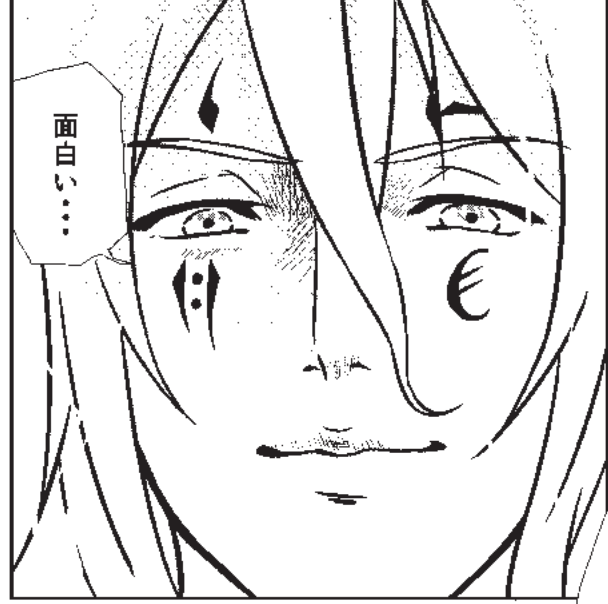


一揆を企てたる
百姓教名を
かくまいたる儂
不届き至極



五郎左衛門

その方代々
佐賀白石
綱島家の
御用石工で
ありながら



面白…



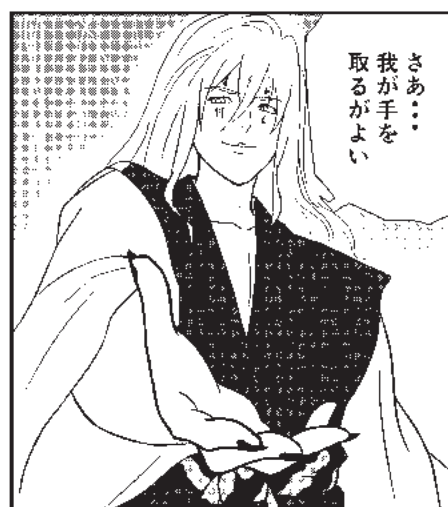
我が名は
五郎左衛門

かつては
お前と同じ
人間であつた



え?
竜神様が

に…
人間に
なつた!?



さあ…
我が手を
取るがよい



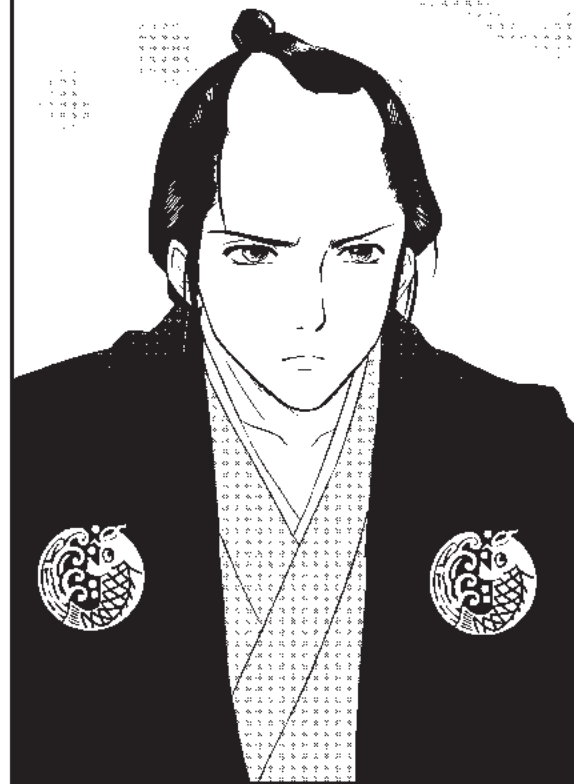
命賭けるとか
言つてません
何も聞こえません

余の望みを
かなえると
申したな

その命を
賭けて

カッ
ッ

三助よ

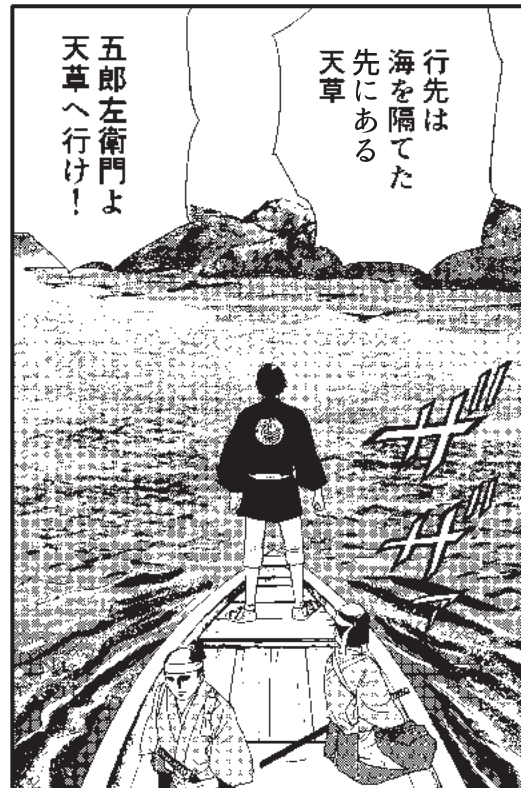


本来ならば
磔 獄門に
値する
重罪である

しかしながら
その方の石工
としての才覚と
今日までの律義な
奉公ぶりを
かんがみ…



罪を減じ
遠島を
申し渡す！



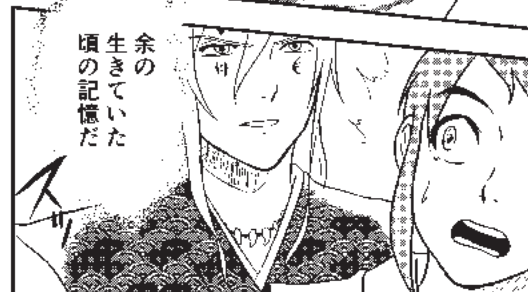
行先は
海を隔てた
先にある
天草

五郎左衛門よ
天草へ行け！



なんだ？
この光景は

俺は一体
何を
見てるんだ？



余の
生きていた
頃の記憶だ



この男こそ
百年前の
余の姿

天下の石工
五郎左衛門と
言った



竜神様って
石工だったの？

そう…

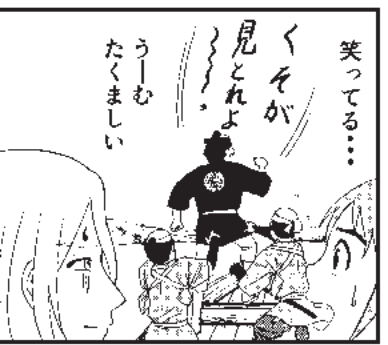
人は道を
きわめれば
神にだって
なれるもの
なのだ



今に
見ているが
いい！

俺は天草に
天下一の
石工の里を
作ってやる！

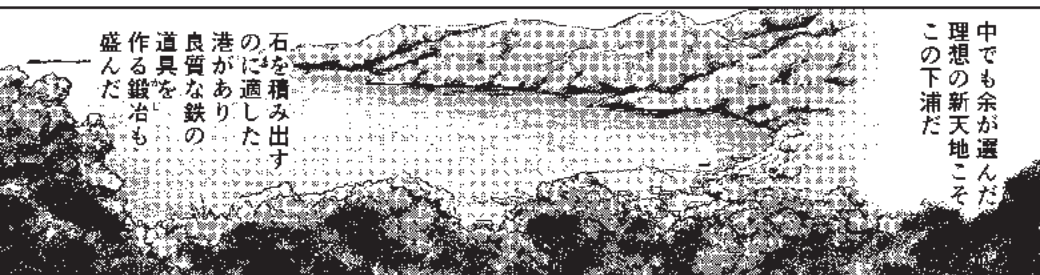
笑ってる…



くそが
見とれよ
うーむ
たくましい



流罪とはいえ
天草は元来
多彩な石材の
産地でもあった
石工に
とっては
悪くない



中でも余が選んだ
理想の新天地こそ
この下浦だ

石を積み出す
のに適した
港があり
良質な鉄の
道具を
作る鍛冶も
盛んだ



狭い…

この地は
この俺には
狭すぎた



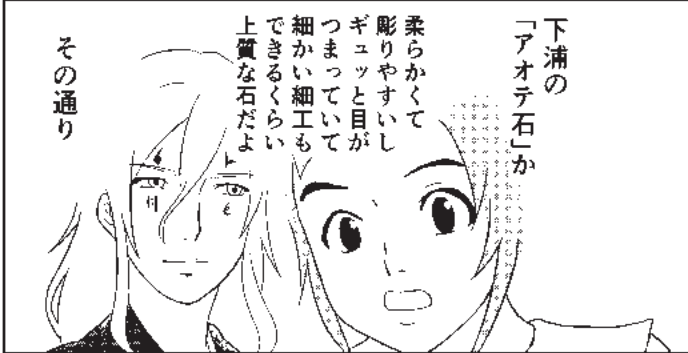
しかし何よりの決め手となつたのは

この石



この白く光輝く砂石(砂岩)こそ

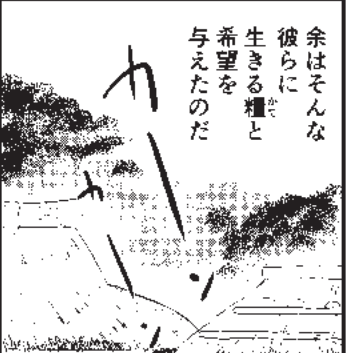
長年多くの石を扱ってきた余が惚れこんだ神秘の石だった



下浦の「アオテ石」か

柔らかくて彫りやすいしギョツと目がつまっていた細かい細工もできるくらい上質な石だよ

その通り



余はそんなに彼らに生きる糧と希望を与えたのだ



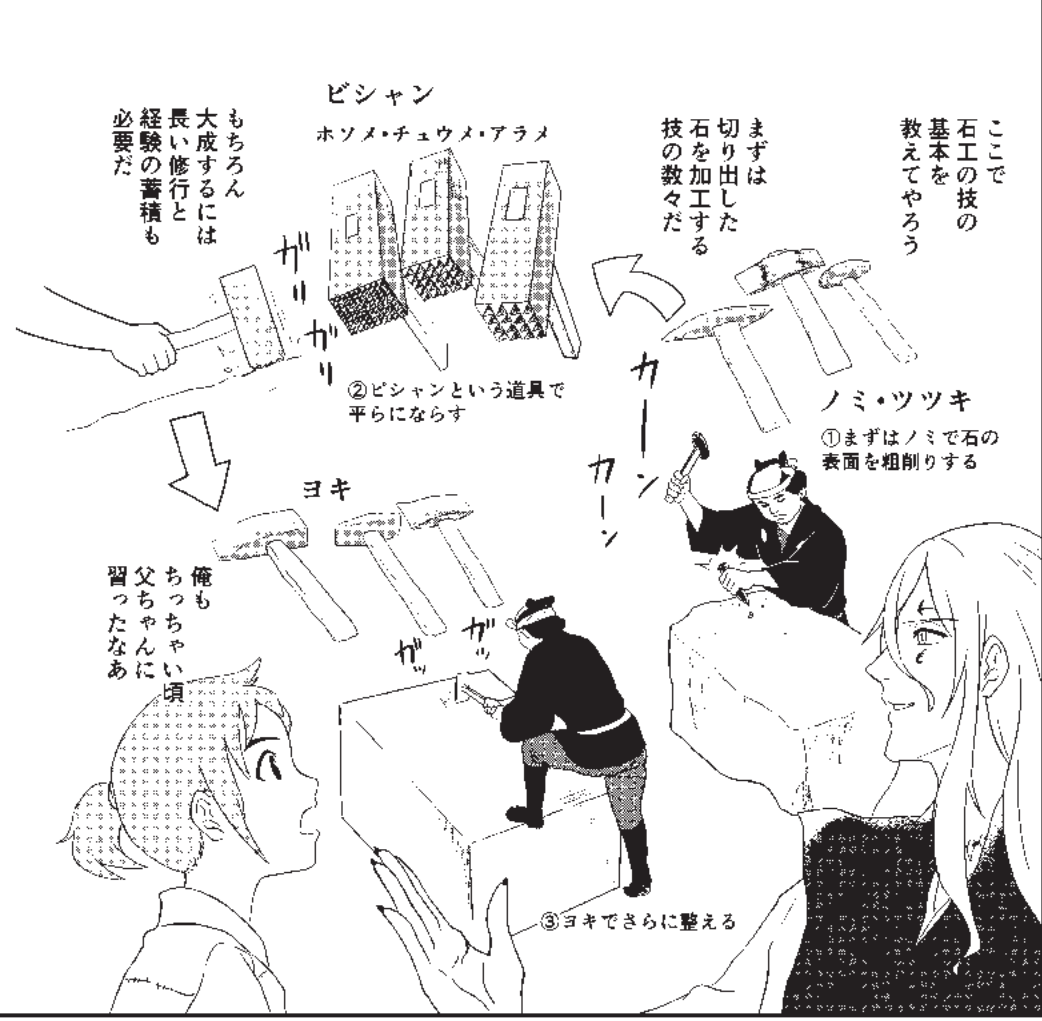
余はこの下浦の地で人々に石工の技を伝えた

元より田畑の実りもかんばしくないと土地柄だ

人々は貧しさにあえいでいた



下浦はたちまち石工たちの笑い声にあふれるにぎやかな里になっていった



ここで石工の技の基本を教えてやろう

まずは切り出した石を加工する技の教々だ

ピシヤン
ホソメ・チュウメ・アラメ

ガリガリ

②ピシヤンという道具で平らにならす

ノミ・ツツキ

①まずはノミで石の表面を粗削りする

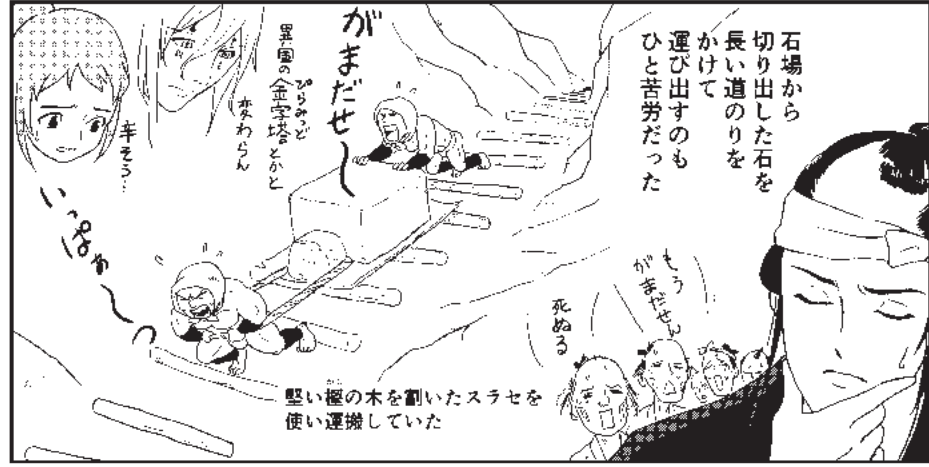
カン

ヨキ

ガッガッ

③ヨキでさらに整える

俺もちっちゃい頃父ちゃんに習ったなあ



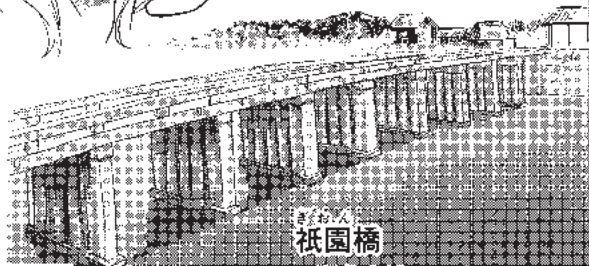
石場から切り出した石を長い道のりをかけて運び出すのもひと苦労だった

がまだせ
異國の金文字とかど
亦あらん

堅い樫の木を割いたスラセを使い運搬していた

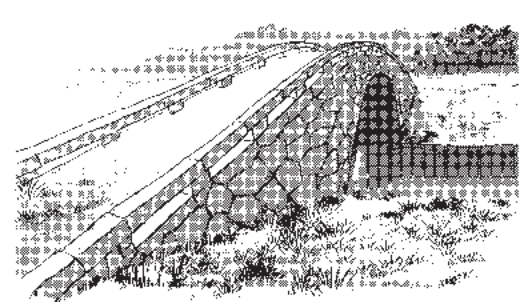


余が伝えた
下浦石工の技は
やがて各地に
多くの名物を
生み出していく



祇園橋

天草本渡の町山回川に
架かる橋。
天保3年(1832年)



山口の施無畏橋

天草本渡山口。
明治4年(1871年)



楠浦の眼鏡橋

明治11年(1878年)

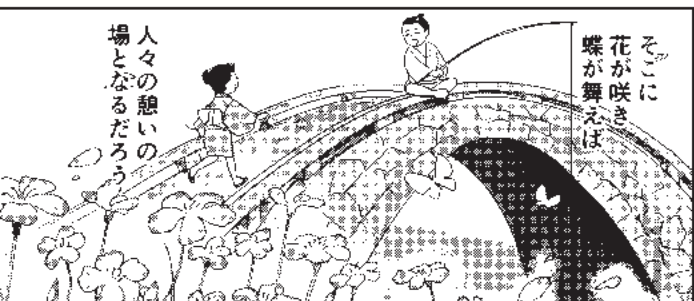


長き風雪に
朽ちて土壌となり
新たな生命を
はぐくむ

余は
時とともに風化し
丸くなってゆく
この石が好きでな

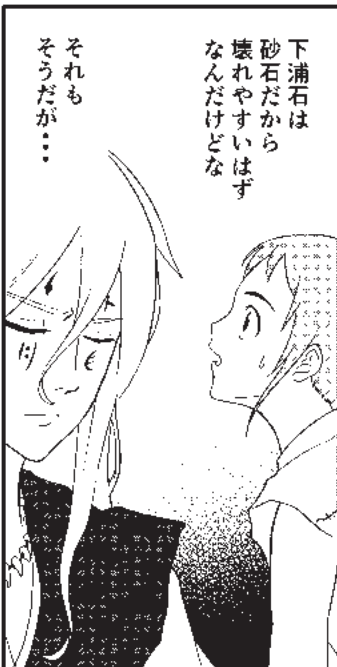
それも
そうだが...

下浦石は
砂石だから
壊れやすいはず
なんだけどな



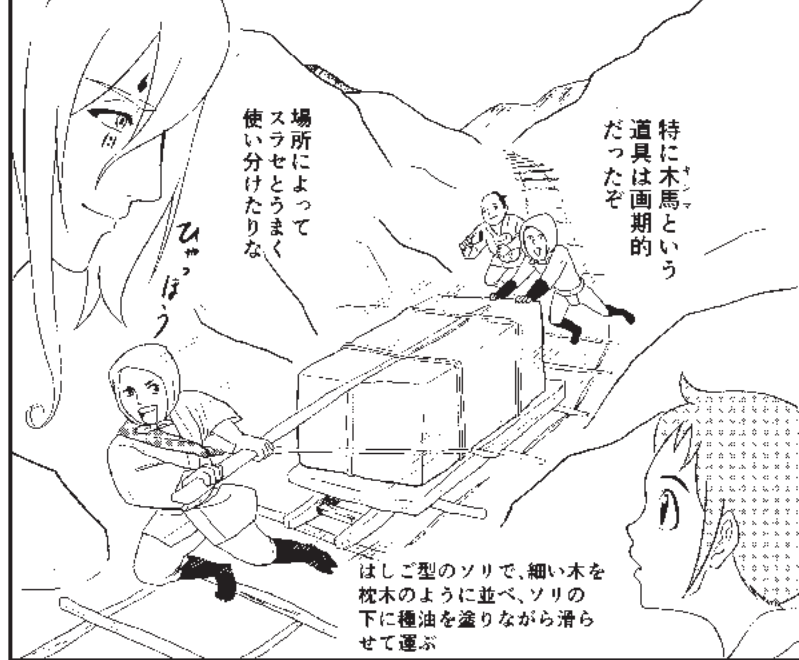
そこに
花が咲き
蝶が舞えば

人々の憩いの
場となるだろう



下浦では大勢の
人足を使うわけにも
いかないからね

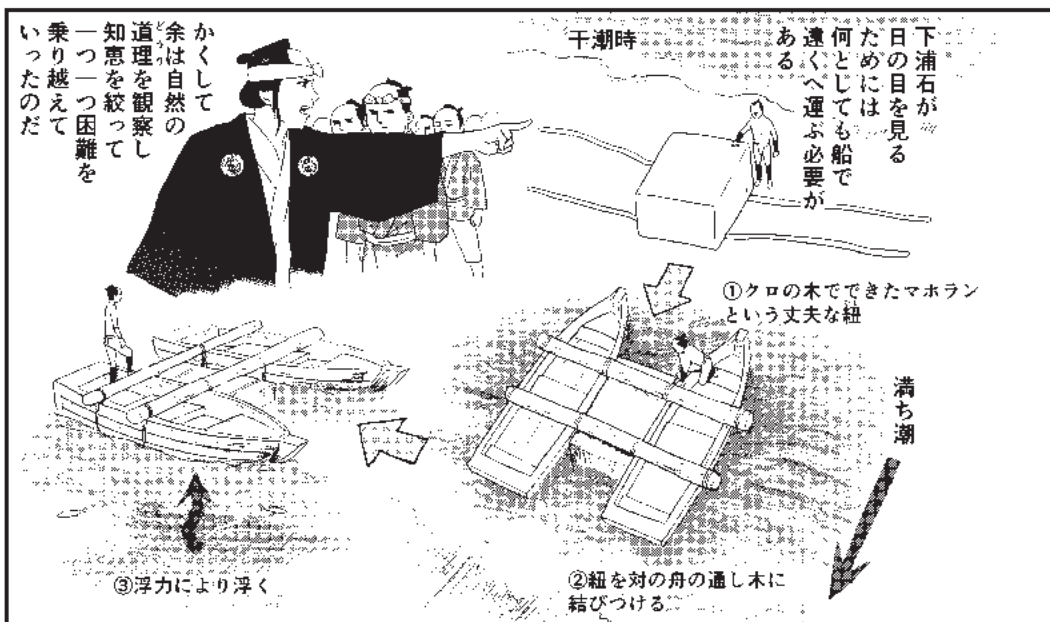
陸路だけ
ではない



特に木馬という
道具は画期的
だったぞ

場所によって
スラセとうまく
使い分けたりな

はしご型のソリで、細い木を
枕木のように並べ、ソリの
下に種油を塗りながら滑ら
せて運ぶ



余は自然の
道理を観察し
知恵を絞って
一つ一つ困難を
乗り越えて
いったのだ

干潮時

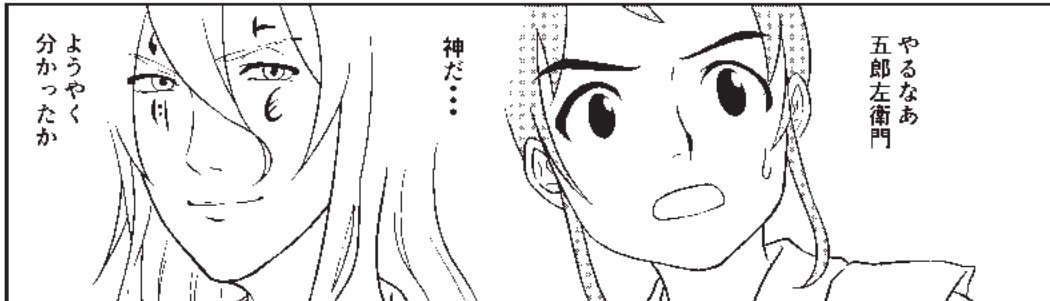
下浦石が
日の目を見る
ためには
何としても船で
運ぶ必要が
ある

①クロの木でできたマホラン
という丈夫な紐

満ち潮

③浮力により浮く

②紐を対の舟の通し木に
結びつける



やるなあ
五郎左衛門

神だ...

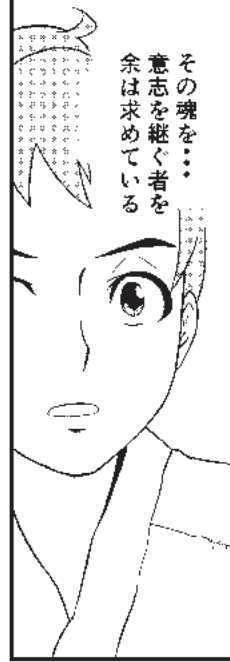
ようやく
分かったか

自然と人間の
調和

それこそが
五郎左衛門が
天草の地に伝えた
石工の魂なのだ



その魂を…
意志を継ぐ者を
余は求めている



竜宮城？

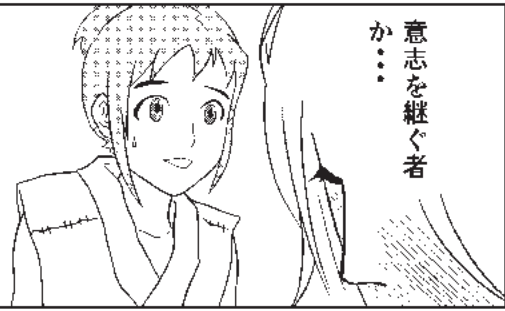
はっ…
ここは

勘違いするな
お前の希望など
聞いてはおらぬ

余はお前を
試すと言った
はずだ

意志を継ぐ者
か…

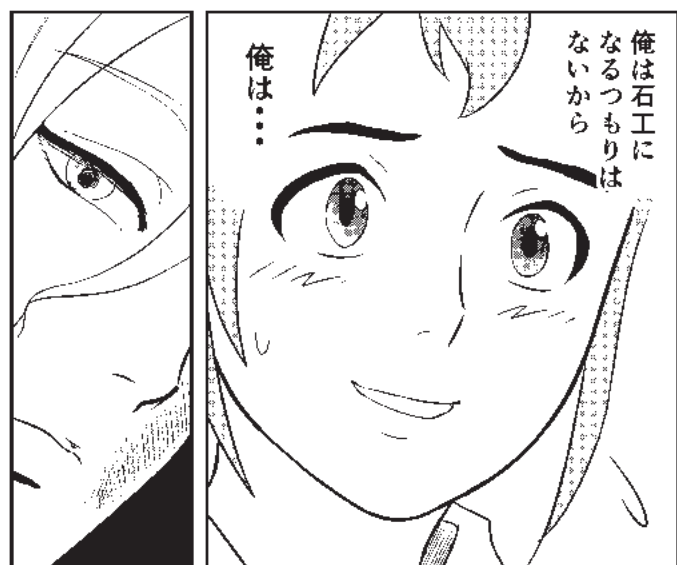
だけど
俺には
無理だよ



五郎左衛門…！

俺は石工に
なるつもりは
ないから

俺は…



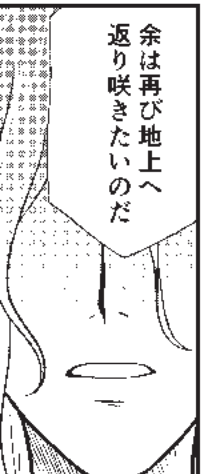
あとはお前が
成し遂げるか
どうか…

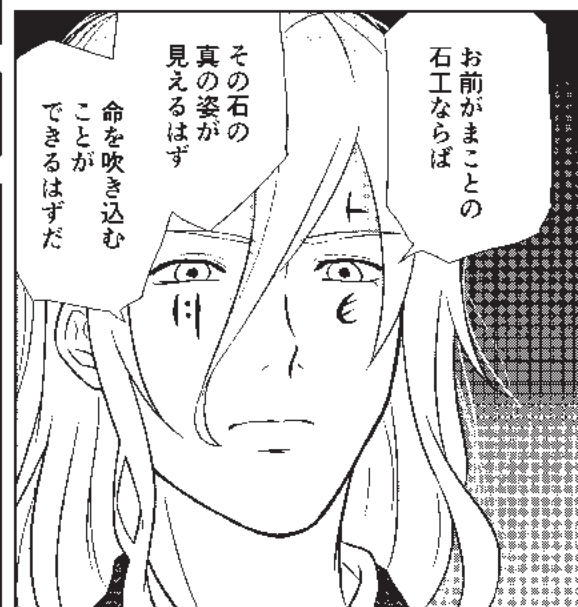
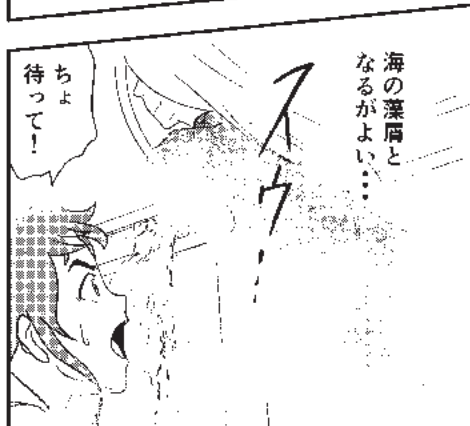
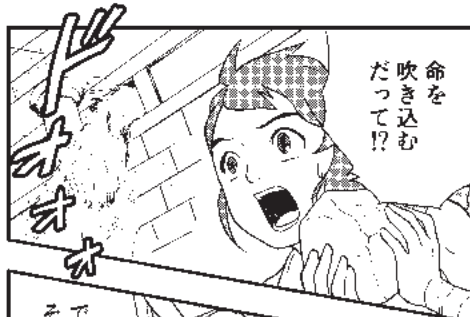
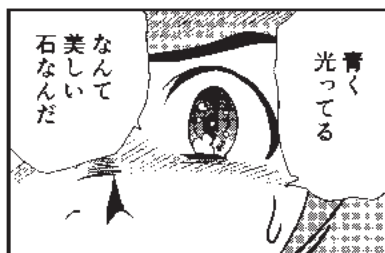
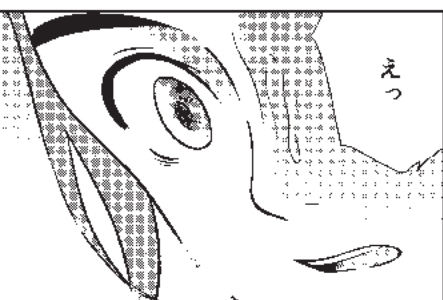
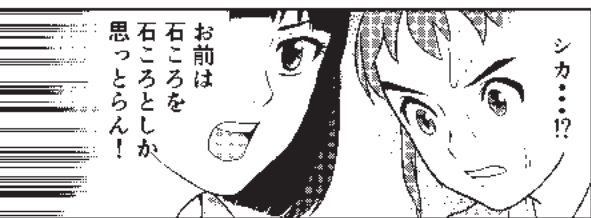
な…
何を？

余は竜神となり
海底に潜んで
久しい

いい加減
こころにも
飽きた

余は再び地上へ
返り咲きたいのだ



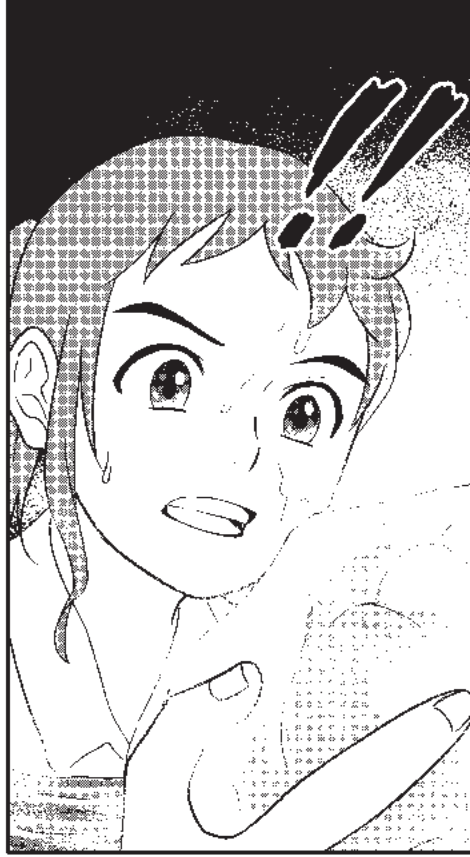
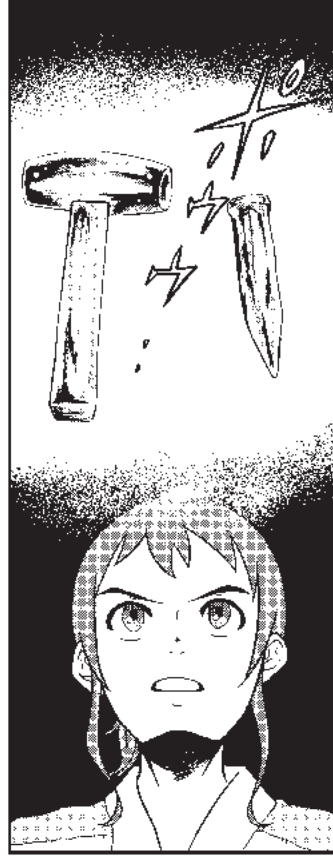




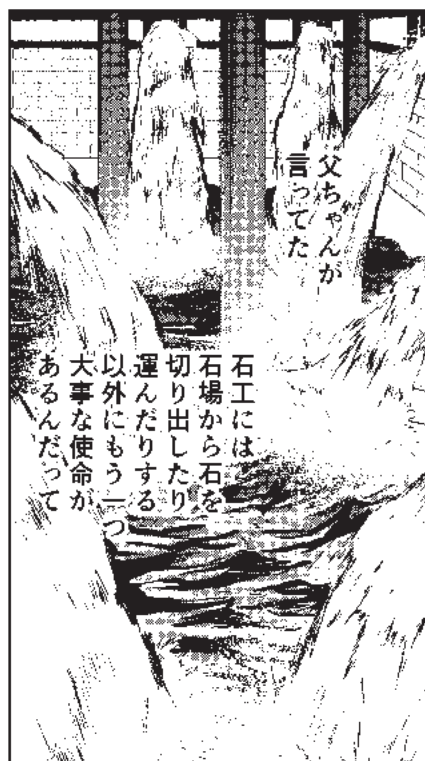
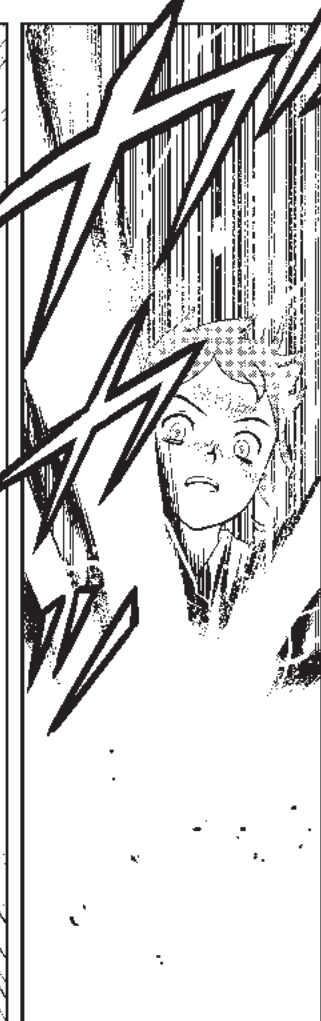
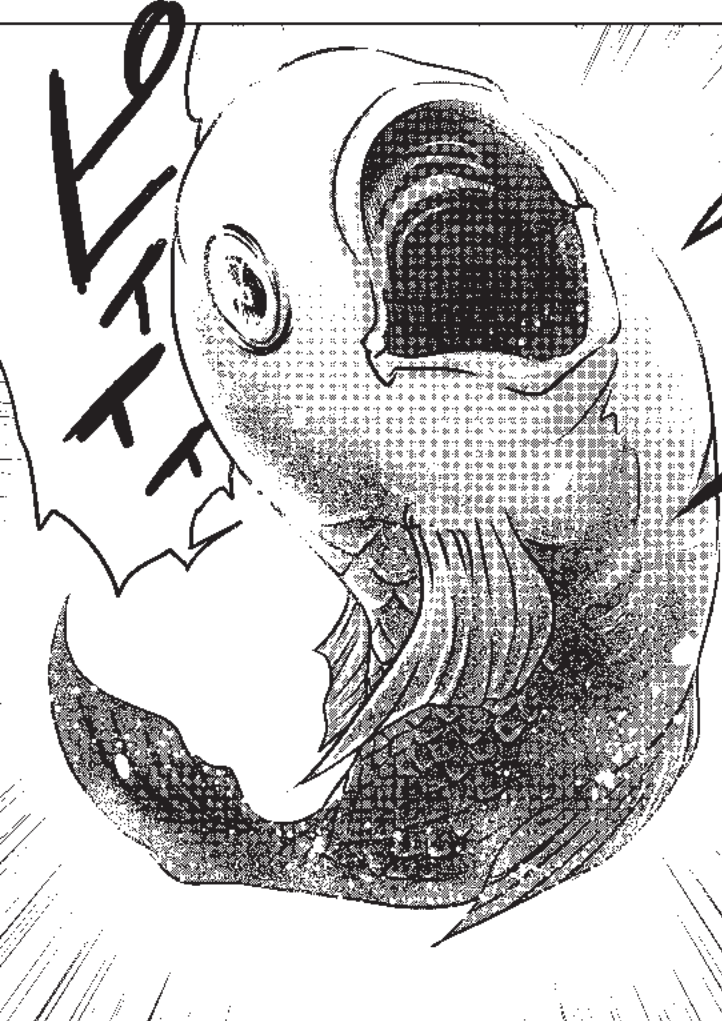
俺は…
石工だ!!



一つの石の
中にも
命がある
その命をこの世に
取り出してやる
ことなんだって…



これ…
これは!



父ちゃんが
言ってた

石工には
石場から石を
切り出したり
運んだりする
以外にもう一つ
大事な使命が
あるんだって

